

実習の感想

M13105 松村悠香

このたびは、2日間という短い期間ではありましたが、様々なことを経験することができ、内容の濃い実習となりました。本当にありがとうございました。夏期研修で行く病院や診療所ではなかなか行くことのできない場所の見学ができたのは、とてもよい機会でした。先生のことは赤ひげ大賞受賞での特番や授業で存じ上げていましたが、まさかCBLで先生のもとで実習ができるとは思ってもいなかったもので、決まった時はとても驚き、待ち遠しく思っていました。

今回私が特に印象に残ったのは、振り返りの時間でもお話ししましたが、先生が利用者さんと話すときの目線や話し方、雰囲気です。先生は自分の目線を利用者さんの目線まで持っていき、肩や手に触れたり、話すときはいつも柔らかい笑顔でした。またご利用者さんが喜んでくれるようにと被り物をして行ったりもしました。訪問診療の時はご本人さんも家族の方も、お医者さんが来たというよりも、頼れる孫が来たみたいに安心した顔をしていたように私には見えました。先生も医者という空気をまとわないようにしているとおっしゃっていて、私にとっては衝撃的でした。

また、児童相談所とურიზუნに行けたのは、なかなかない機会なのでとてもよかったです。児童相談所の子供たちは、小児の外来を見たことがなかったので、その時はああ医者って子供から怖がられて泣かれるのか、辛いなと軽く思っていました。次の週に病院実習で小児科の外来を見せていただいて、あの子供たちの怖がり方、接し方は異常だったのだなと実感しました。先生と目を合わせられない子や目を隠す子、落ち着きなく座っている子、逆に年齢よりも大人びている子もいました。腕にちょうどたばこぐらいの大きさの火傷の跡がある子は、もしかしたら虐待の痕なのかなと思うと無表情の顔がとても痛々しく思えました。さらに同じ中学校の子がいるからと、本人には問題はないのに他の子どもたちから隔離され、狭い部屋で過ごさなければならない子がいるという状況をうかがって、子供たちにとっての環境の悪さを知りました。もちろん、施設の重要性もわかりますが。

ურიზუნでは子供たち（たまにお姉さん）の楽しそうな顔、またスタッフの方々の優しい笑顔を見ることができてほっこりしました。宇都宮動物園を貸し切りでしかもスタッフさん付きで回ったことや、唯ちゃんたちが北海道に飛行機で行ったお話は、一人では、もしくは家族だけではできないことも、様々な方に支えられながらならできると強く思いました。わたしもそういうお手伝いができるようになればいいなと思いました。また、唯ちゃんの学校の件ももっと学びたいと思っている子たちへの環境整備が大切だなと実感しました。良い結果になることを願っています。

今回実習をさせていただき、機会を与えてくださった先生方、スタッフの方々に深く感謝申し上げます。これからたくさんのことを学び、地域で必要とされるような医者になれるよう努力していきたいと思えます。